

山口情報芸術センター [YCAM] 展覧会

株式会社細尾 + YCAM

共同研究開発成果展示

2017年12月9日(土)～2018年3月11日(日) 10:00～19:00 入場無料

山口情報芸術センター [YCAM] ホワイエ

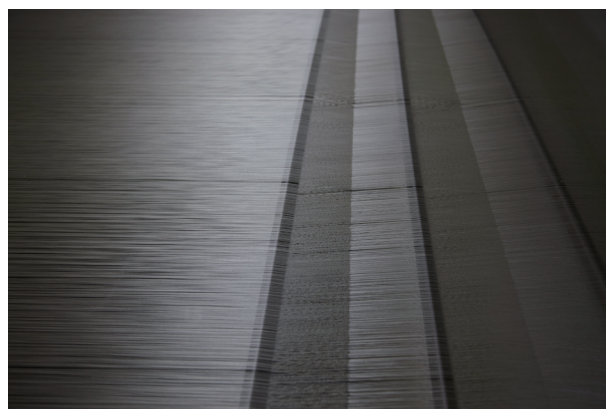
人類にとって布とは何か—西陣織の老舗・細尾とYCAMとの共同研究の成果を公開！

山口情報芸術センター [YCAM] では、株式会社細尾との共同研究開発の成果展示をおこないます。

これまでにYCAMでは、研究開発事業への取り組みとして、アーティスト、建築家、デザイナーと多様な研究領域の研究者を結びつけ、新たな技術がもたらす芸術表現の実践的な探求に取り組んできました。

本展は、京都・西陣織の老舗である株式会社細尾とYCAMが2015年より継続して研究開発している新しい布をその成果として展示公開するものです。古代から人類とともにあった布は、生活や民俗宗教に根ざし、地域の風土に適す、さまざまな技術が生み出されてきました。

細尾との研究開発の起点となった布の根源的な要素である「組織構造」と「糸(素材)」に焦点を当て、現代の技術や視点を取り入れた、新しい布の可能性を提示します。また、布の初源に立ちかえるものとして、日本古来の布である大麻布を参考作品として展示するとともに、2015年から慶應義塾大学寛康明研究室、古舘健とともに開発を進めてきた新作の布を公開します。古代から現代に至るまで、技術的探求によって生み出された布の数々を是非この機会にお楽しみください。



写真(上): 元禄年間から続く西陣織の老舗・株式会社細尾の外観

写真(下): 織物の制作過程(参考画像)

この機会に、取材や記事掲載にご協力いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

お問い合わせ 山口情報芸術センター [YCAM]

TEL: 083-901-2222 FAX: 083-901-2216 メールアドレス: press@ycam.jp

〒753-0075 山口県山口市中国町7-7 <http://www.ycam.jp>

取材に関するお問い合わせ、プレス用写真等ご入用の方は上記までご連絡ください。



布の始まりと歴史、そして、これから—伝統と最新のテクノロジーが融合する

本展では、研究成果として、布の過去と未来を交錯する2つのパートから展示を構成します。

布の歴史

布の歴史を知る手立てとして、美術家で近世麻布研究所所長の吉田真一郎が収集し、展示構成した大麻布群を参考作品として公開します。大麻布は、紀元前から作られており、日本人にとって最も身近な布です。また素材である大麻自体が、信仰においても古くから重要な役割を果たしてきた意味でも、大麻布は日本人の文化や民俗の固有性と深い関わりがあります。大麻布によって構成された白一色の布群を展示することで、「白」の微細な変化から、布を構成する微視的で繊細な要素を表現し、布の歴史へと思考を促します。



吉田真一郎（美術家／近世麻布研究所所長）の大麻布による参考作品の一部

これからの布

京都・西陣の老舗である株式会社細尾は、元禄年間の創業から伝統的な織屋としての歴史を持ちつつも、常に革新的な技術を取り入れ、進化した織物を作り出し続けています。西陣織は、近代化に至るまでは、貴族や武士階級の高級先染めの紋織物として、贅を尽くした卓越した技巧が生み出され、現在でも、世界最高峰の織機の技術を有した伝統産業として認知されています。特に、西陣織では縦糸と横糸の1本1本に至るまで緻密に制御ができるため、箔*1に代表される特殊な素材を織り込むことが可能です。本事業では、細尾とYCAMが中心となり、慶応義塾大学寛康明研究室、アーティスト／プログラマーの古舘健と共に、西陣織の卓越した織機技術だからこそ実現できる研究開発に取り組んできました。コンピュータープログラムや新規素材の導入実験により、「糸」「織」と言った布の根源的な構成要素に新しい可能性と発想を与え、これからの布とは何か、また布によってもたらされる新たな芸術文化の進展を思考します。



細尾での研究開発の様子

*1 金銀箔を、三桎またはコウゾなどを原料とした和紙に押し、細く裁断、糸状に撚らず、平箔のまま織物に織り込む技法。

プロフィール

株式会社細尾

元禄年間（1688年）、京都西陣において大寺院御用達の織屋として創業。西陣織とは京都の先染め織物のことで、1200年前より貴族をはじめ、武士階級、さらには裕福な町人達の圧倒的な支持を受けて育まれてきた。「細尾」は、現在、日本が誇る「帯」や「きもの」をはじめ、世界のラグジュアリーマーケットに向けた、西陣織による革新的なファブリックの開発に積極的に取り組んでいる。

慶應義塾大学寛康明研究室／JST ERATO 川原万有情報網プロジェクト

寛康明／加治洋紀／武井祥平／中丸啓／前田真吾（芝浦工業大学）*50音順

2008年、慶應義塾大学SFCに創設。メディアデザイン／メディアテクノロジー分野にとどまらず、領域横断的な研究や表現活動に取り組む。『Activating the Physical』というキーワードのもと、物質（Atoms）と情報（Bits）が深く融合し、結合した新たなメディア・環境と人間との関係性（インタラクション）、およびそれがもたらす未来を見通し、体験できる形で具現化する。2015年より、JST ERATO 川原万有情報網プロジェクトに参画し東京大学と連携のもと、IoTを基盤として自然物と人工物の生態系の新たなつながりを形成するための研究活動をおこなう。

周防貴之（建築家）

1980年生まれ。2006年慶應義塾大学大学院理工学研究科修了後、2014年まで妹島和世建築設計事務所・SANAAに勤務。2015年に株式会社SUOを設立。主な作品として、S-House Museum（岡山市、2016）、キタコレビル／Chim ↑ Pom通り（Chim ↑ Pomと共作）（東京都、2017）など。主な進行中のプロジェクトとして、高松市屋島山上拠点施設（2020年竣工予定）などがある。

古舘健（アーティスト／プログラマー）

1981年神奈川生まれ、京都在住。コンピュータープログラミング、メカトロニクスなどを用いて、インスタレーション、ライブパフォーマンスなどをおこなう。2002年よりサウンドアートプロジェクトThe SINE WAVE ORCHESTRAを主宰。第二回横浜トリエンナーレ（2005）をはじめ、国内外、様々な展覧会にて作品を発表、Prix Ars ElectronicaにてHonorary Mentionを受賞（2004）。高谷史郎、坂本龍一、Dumb Typeを始め、様々な作家の制作に参加。 <http://ekran.jp/kf>

吉田真一郎（美術家／近世麻布研究所所長）

1948年、京都府生まれ。20代から絵画制作を始める。75年に西ドイツへ渡り、現代美術家のヨーゼフ・ボイスに出会い、帰国後、ボイスの影響から古美術や民俗学を独学で勉強し始める。奈良県立民俗博物館「奈良晒」展、滋賀県愛荘町立歴史文化博物館・東近江市立能登川博物館「高宮布」展、新潟県十日町博物館「四大麻布」展など、主に江戸時代の苧麻布、大麻布の繊維と糸の研究を発表してきた。2012年、国立民族学博物館「布と人間の人類学的研究」にて研究発表。共著に『別冊太陽 日本の自然布』（2004年／平凡社刊）などがある。

開催概要

株式会社細尾＋YCAM 共同研究開発成果展示

2017年12月9日（土）～2018年3月11日（日）

10:00～19:00

入場無料

火曜休館（祝日の場合は翌日）、年末年始（12月29日～1月3日）

山口情報芸術センター [YCAM] ホワイエ

参加者：

株式会社細尾

慶應義塾大学寛康明研究室／JST ERATO 川原万有情報網プロジェクト

古舘健（アーティスト／プログラマー）

吉田真一郎（美術家／近世麻布研究所所長）

会場デザイン：周防貴之（建築家）

主催：公益財団法人山口市文化振興財団

後援：山口市、山口市教育委員会

助成：平成29年度文化庁劇場・音楽堂等活性化事業

協力：株式会社細尾、JST ERATO 川原万有情報網プロジェクト

共同開発：YCAM InterLab

企画制作：山口情報芸術センター [YCAM]